



平成15年  
2月25日号

No.1121

●毎月5・15・25日発行

# 広報 かもがわ

●編集発行・鴨川市役所秘書課  
広報広聴係  
●電話・0470(93)7827  
●FAX・0470(93)7850  
●鴨川市横渚1450  
●郵便番号・296-8601

## これが城西国際大学の 鴨川校地・教育研究施設です

計画概要



城西国際大学施設の模型（南側から見たところ）

城西国際大学（東金市）の鴨川校地・教育研究施設の建設が、五月から六月ごろにかけて太海多目的公益用地が始まります。学校法人・城西大学とは、「学問による人間形成」という建学の精神が十分に発揮できる場所として、昨年五月に土地の無償譲渡契約を締結。施設の具体化について協議を行って来ました。計画では福祉関連の大学院をはじめ、学部学科の教育・実践・研究や学生のスポーツ、レクリエーション、地域との交流の場として、教育棟や管理棟、宿泊棟、グラウンドの整備が行われるものです。学校法人・城西大学は、創始者である水田三喜男氏の生誕地で新たな教育研究を展開していくこととなります。

### 第1期事業 太海多目的公益用地で5〜6月に着工

昨年、開学十周年を迎えた城西国際大学は、二学部八学科に加え大学院修士課程六専攻、博士課程二専攻を擁する総合大学と言われるまでになっています。同大学の教育研究施設は学校法人・城西大学により太海多目的公益用地約四十畝のうち約四・七畝（うち平地部分三・三畝）へ三期に分け整備が進められます。第一期事業は全体事業の

大半を占め、教育棟や管理棟、宿泊棟などを建設。施設の中には六十人収容の講義室やセミナー室のほか、百六十人を収容するAVホール、研究室、市民との交流スペースが設けられます。これらの施設は海を見渡せる眺望を生かして、上下二段階ある敷地のうち上部の敷地にまとめられ、下部の敷地には多目的グラウンドなどが配置されます。完成後のオープンは来年四月になる見込みです。また、第二期と第三期の事業では、宿泊棟などが増設される予定です。太海多目的公益用地は造

成が平成十三年三月に完了してから極めて短期間のうちに、城西国際大学や早稲田大学に活用されることになり

### 水田元蔵相の生家を一般公開

#### 母屋と長屋門 国の登録文化財

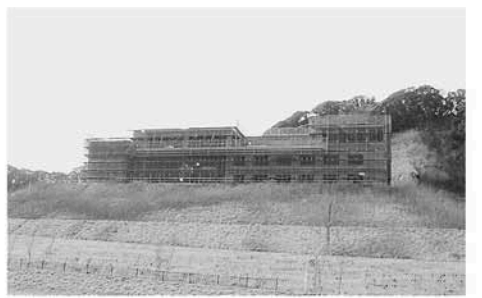
郷土出身で大蔵大臣などを務めた政治家・故水田三喜男氏の生家（西）の一般公開が、城西大学同窓会などによる修復・保存工事を終え、始まりました。生家は江戸時代より酪農の盛んだった嶺岡牧に在り、母屋（百五十五平方尺）と長

屋門（八十二平方尺）は昨年二月、国の登録文化財となつています。母屋は茅葺き寄せ棟造。江戸時代後期の建築とされ、囲炉裏や土間、縁側などが昔の農家の生活を伝えています。また、長屋門は寄せ棟造の瓦葺きで門内に家畜

小屋を備え、酪農の歴史を物語る貴重な資料です。故水田三喜男氏は、明治三十八年、曾呂村に生まれ、安房中学（現・安房高）を経て京大を卒業。昭和二十一年の衆院選挙で政界入りし通産相や大蔵相（現・財務相）などを歴任、昭和五十一年に七十一歳で急逝しました。政治活動と共に教育にも力を注ぎ昭和四十年、学校法人・城西大学を設立しています。



なり。将来のために先行して投資し事業を行ってきた結果、今後、両大学の教育研究施設をはじめ市内の福祉施設やスポーツ施設へ大学関係者や学生の往来が活発になると、地域経済の活性化や文化・教育環境の向上など波及効果が図られるものと、市では期待をしています。なお、県へ要望を続けているコンベンションホール用地の活用については、県でも大変厳しい財政状況にありますが、両大学の施設誘致の結果を踏まえて、大



### 早稲田大学通年型セミナーハウス 6月完成に向け建設着々

早稲田大学・通年型セミナーハウスの建設が、太海多目的公益用地内の城西国際大学施設用地の隣接で、着々と進められています。現在は電気設備や配管工事などが行われています。今後は内・外装の工事に取りかかり、6月末には完成する予定です。

### 第1回臨時市議会

#### 一般会計補正予算や 財産の取得など4件を可決

今年第一回目の臨時市議会が二月十七日（月）に開かれ、鴨川の新しい顔づくり基金条例の廃止や平成十四年度国民宿舎事業会計補正予算、平成十四年度一般会計補正予算、財産の取得の四議案を可決しました。議案は全て、(株)鴨川マリ

ン開発が所有する加茂川河口埋立地内の漁村再開発用地などの取得にかかわるもので。漁村再開発用地は、フィッシュアリーナ事業を活用し、漁港と漁港後背地域の調和と連携を図りながら漁業と観光、旧市街地との交流を促進、周辺の活性化を図るために造成されました。(株)鴨川マリ

ン再開発用地の一部を含めた埋立地（約一万三千八百平方尺）を今後の都市計画整備事業

に連動させた公園などとして、地域の活性化にもつながるよう、(株)鴨川マリが開発から取得することとしました。

取得にかかる費用は、四億五千九百八十四万円です。この財源としては、平成十四年度の一般会計を補正し、鴨川の新しい顔づくり基金から、これを全額取り崩し二億六千三百五十八万円を繰り入れ、また、国民宿舎事業会計からは一億九千八百二十六万円を繰り入れ

このような中、近隣商店の方々や観光業の方々、文化団体の方々など多くの市民からこの土地を公園などとして整備し、市民の憩いの場やイベントスペースとして存続して欲しいという要望が寄せられていました。このため、市では、漁村再開発用地の一部を含めた埋立地（約一万三千八百平方尺）を今後の都市計画整備事業

なお、埋立地の一部（約四千五百二十六平方尺）は漁船の係留地や海洋深層水事業を展開していく用地として、鴨川市漁業協同組合が取得します。

### 3月議会は3月3日開会

なお、新年度予算などを審議する今年第一回目の定例市議会（三月議会）は三月三日（月）に開会されます。議案の詳しい内容については、追って広報紙でお知らせします。

とじて保存しましょう